

早稲田大学 文学部 国語 講評

(総合分析)

出題形式	マーク式・記述式併用
試験時間	90分(現代文2問、古文1問、漢文1問)
難易度	昨年より易化

(大問別講評)

(一) 評論文。「判断エラーにおける心理」について。出典:池内了『疑似科学入門』。

(本文字数:約 2900 字 = 昨年より約 300 字減少。設問数:8 = 昨年より1問減少。)

小問	難易度	コメント
問一	やや易	【脱落文挿入】脱落文中の具体例から考える。ホと迷うかもしれないが具体例が違う。
問二・	易	【空欄補充】空欄直後の2行よりたやすく判断できる。
問二・	易	【空欄補充】空欄直前の1行に同義表現と対比表現とがある。
問二・	易	【空欄補充】前後の文脈から判断する。
問三・a	易	【空欄補充】空欄直前の「経験」「先入観」と並列の関係になるものを選択する。
問三・b	標準	【空欄補充】空欄の3～2行前に同義表現がある。
問三・c	易	【空欄補充】直前の文脈と選択肢の語義からたやすく判断できる。
問四	やや難	【傍線部説明】ロとハが紛らわしい。文章後半のそれぞれの説明部分から「反証」に対する両者の違いが読み取れたか。
問五	易	【傍線部説明】傍線部の5行後に答えがある。
問六	易	【傍線部説明】「適合しないもの」という設問の条件を読み落とさなければ容易。
問七	標準	【傍線部説明】ホもDと同様、判断エラーに属する事柄である。
問八	やや易	【空欄補充】ハは「分析し再確認する」が不適切。

(二) 評論文。「白」について。出典:原研哉『白』。

(本文字数:約 2600 字 = 昨年より約 400 字減少。設問数:7 = 昨年と同じ。)

問九・	やや易	【空欄補充】空欄 の3行前に根拠がある。消去法でもたやすい。
問九・	やや難	【空欄補充】ニが紛らわしいが、前後の文脈、特に直後の「白は……壊れやすい」が決め手となる。
問九・	易	【空欄補充】空欄 の一文前から考える。他の選択肢は論外。
問十	やや易	【傍線部説明】傍線部Aの3～2行前の一文から判断できる。
問十一	易	【傍線部理解】一つだけ「白」についての筆者の主張がある。他は否定されている。
問十二	やや難	【整序問題】空欄甲の直後からロが最後になることが決まる。後は直前の「世界は……饗宴である」の説明としてどれが最初にくるか考える。
問十三	標準	【空欄補充】直前の「白は……情報」と同義の語が入る。傍線部2の直前の3行まで戻れたかどうか。
問十四	やや易	【論旨合致】2つ明らかに合致しないものがある。
問十五	標準	【漢字書き取り】1は語彙力も試されている出題である。

(三) 古文。出典：『栄花物語』。

(本文字数：約 1200 字 = 昨年より約 300 字増加。設問数：8 = 昨年と同じ。)

小問	難易度	コメント
問十六	標準	【文脈把握】直後の二郎君のセリフとのつながりから考える。
問十七	やや難	【文脈把握】問十六を間違ってしまうと正解できない。
問十八	易	【文法問題】基本的な敬語動詞の問題。
問十九	やや難	【空欄補充】Aがハとホ、Bがイとホ、で迷うが、Dには「そのまま」の意味のホが入るので、Aにハ、Bにイ、が入ると決定できる。
問二十	やや難	【文脈把握】八が紛らわしいが、直前、及び、2～3行目の皮の聖のセリフとのつながりから考える。
問二十一	やや難	【文脈把握】直前・直後とのつながりを中心に考える。八だと直後の文脈と整合しない。
問二十二	標準	【内容合致】八がやや紛らわしいが、「我が心にも勝りてありけるかな」から「かわいそう」の部分がおかしいと分かる。
問二十三	易	【文学史】『栄花物語』は平安後期に成立した歴史物語。

(四) 漢文。出典：『晋書』。

(本文字数：約 200 字 = 昨年より約 20 字増加。設問数：4 = 昨年と同じ。)

問二十四	易	【返り点】「令」から使役形を見抜く。読み方も示されているので容易。
問二十五	標準	【空欄補充】空欄の2行後から考える。
問二十六	やや難	【文脈把握】傍線部だけで判断するのは難しい。後ろの文脈と整合性のあるものを選ぶ。
問二十七	標準	【文脈把握】傍線部だけではなく、後ろの文脈から考える。

〔総合コメント・今後の指針〕

昨年と比べて、評論文の難易度が大幅に易化した。そのため、合格するには高得点をとる必要があると思われる。ケアレスミスや漢字の設問での失点が命取りになるだろう。

大問一は、「判断エラーにおける心理」についての評論文。頻出テーマではないものの、具体的説明が多い分かりやすい文章なので、ほとんどの受験生が抵抗なく読めたであろう。設問も、難易度の低いものがほとんどなので、高得点をとる必要があると思われる。

大問二は、「白」についての評論文。内容はそれほど難しくないもので、抵抗なく読めたであろう。設問は、紛らわしい選択肢は少なく、傍線部や空欄の前後の文脈だけで解ける問題がほとんどだった。ふだんから傍線部や空欄の前後をしっかりと分析するという姿勢を身につけておくとうい。

大問三は、『栄花物語』。傍線部だけで解ける問題は少なく、登場人物のセリフのつながりなど、文脈を意識して解く問題が目立った。比較的容易な大問一・大問二では差がつきにくいぶん、大問三でどれだけ得点できたかで合否が左右されると思われる。

大問四は、『晋書』。昨年よりはやや難化している。大問三と同様に、文脈を理解していないと解けない問題が目立った。本学部を受験する場合は、高校の副読本や予備校のテキストに載っている句形を細かい部分までしっかりと覚えておこう。